

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

明治三十二年改正

埼玉縣小學規則 全

埼玉縣浦和町大南堂
岩崎長造

13732
サ

埼玉縣小學規則

學區ノ事

第一條 管内ヲ分割シテ三中學區トス其區劃並包括スル郡區左之通

第十條 中學區

足立郡ノ内 埼玉郡ノ内

第十八區 第十九區 第二區 第二十一區 第二十二區

第二十三區 第二十四區

第十條 中學區

埼玉郡ノ内 葛飾郡ノ内 足立郡ノ内

第一區 第二區 第三區 第四區

第五區 第六區 第七區 第八區



第十三番中學區

埼玉郡ノ内 足立郡ノ内

第九區 第十區 第十壹區 第十貳區

第十三區 第十四區 第十五區 第十六區

第十七區

第貳條 每中學區ヲ分割シテ貳百十小學區ト

ス一小學區ノ人口凡ソ六百人内外ヲ以テ目

的トス故ニ大村ハ分ツテ數區ヲ設ケ小村ハ

合シテ一區ヲ設ク

第三條 土地ノ情態ニヨリ數小學區中一小學

ヲ興シ之ヲ保護兼用スルノ類其便宜ニ任ス

之ヲ聯區ト稱ス

但數區ヲ合セテ一區トス可ラス

第四條 小學區ハ人口増減ニヨリ時々分合變

換アルヘシ

學校ノ事

第五條 小學ニ貳種アリ即チ公學ト私學ト是

ナリ

第六條 區費縣費ヲ以テ設立保護シ或ハ委托

金ノ内ヲ以テ學費幾分ヲ扶助スルモノ之ヲ

公學トシ或ハ獨カラ以テシ或ハ數人社ヲ結

ヒ設立保護スルモノ皆之ヲ私學ト稱ス

第七條 公私小學ヲ數種ニ區別ス即チ尋常小

學女兒小學一六小學夜間小學等ナリ

第八條 女兒小學ハ尋常教科ノ外裁縫其他婦女ノ工藝ヲ習ハシム此學校ハ人家稠密ノ市街ニ設ク

第九條 尋常小學ハ全ク小學教則ニ從ヒ學齡生徒ヲ教育ス

第十條 一六小學ハ尋常教科ヲ省略シ貧人ノ子弟其他尋常小學ニ就テ學フヲ能ハサル者ヲ教育ス

第十一條 夜間小學ハ小學ノ教ヲ受ケスシテ成長セシ者或ハ晝間學事ニ暇ナキ者又ハ晝間出校生徒ノ尚ホ勉強スル者等ニ讀本算術講義等ヲ授ク故ニ此生徒ハ年齡ニ拘ハラズ

第十二條 每區壹箇ノ小學本校ヲ置ク本校ハ諸校ヲ統轄シ且教授方法ノ模範トナス

第十三條 區内諸校生徒ノ内拔群進步ノ者ハ小學本校ニ入り寄宿生トナルヘシ

第十四條 官廳ノ許可ヲ得ヌシテ各種ノ學校又ハ私家塾ヲ開クヲ得ス

第十五條 凡ソ學校開業ヲ願フ者ハ卷末第壹號書式雛形ニ照準シ書面三通ヲ認メ學區取締ヲ經テ官廳ニ差出スヘシ

第十六條 生徒學校ニ通學スル道程ハ貳十丁ヨリ隔絶セシム可ラス廿丁外ニ渉ル場所ニハ別ニ一校ヲ設クヘシ

第十七條 學校構内ニハ必ス遊息運動ノ設
ケアルヘシ是レ放課時間ノ雜沓ヲ妨クト生
徒ノ身性ヲ養全スル為メノ備ナリ

第十八條 新ニ開學ヲ願フ者ハ其設置スヘキ
地所ノ圖面並組合區村ノ戸數人負等詳細取
調開學願書ノ外別ニ尙通ヲ差出スヘシ

第十九條 學校廢合移轉校名改稱等ハ其事由
ヲ具狀シ官廳ニ伺ヒ指令ヲ待ツヘシ

第二十條 每校主者尙名正副戸長ヲ以テ其撰
ニ充テ校費出納其他物品調理ノ事ヲ掌ラシ
ム

第二十一條 小學ハ男女校ヲ別異スルヲ要セス

ト雖モ其教場ノ如キハ成丈別異スヘシ

第二十二條 校名ハ地名ヲ用フルヲ便宜トス尤
モ地名ニテ不都合ノ場所ハ別ニ校名ヲ擇フ
可シ

但同村驛内ニ校以上設置有之キハ方位
等ヲ以テ名稱區別可相立事

第二十三條 新ニ學校ヲ建築スルキハ校内教場
ノ模様且建築セント欲スル地所ノ都合等必
ス學務官ノ檢定ヲ乞フ可シ

第二十四條 本校ハ区内學校事務局ヲ合併ス區
内諸校ニ報告等ノ事總テ此局ヨリ發ス

教員ノ事並職制ノ事

第廿五條 小學教員名稱等次給料左之如

名稱	上等月給	中等月給	下等月給
大學教	貳十四圓	十八圓	十七圓
權大學教	十五圓	十四圓	十三圓
中掌教	十二圓	十壹圓	十圓
權中掌教	九圓		八圓
少掌教	七圓		六圓
權少掌教	五圓		四圓
助教	三圓		貳圓五十錢

第廿六條 助教ノ外副員ヲ置ク副員ハ生徒中
 先進ノ者ヲ撰用ス其月給金壹圓五十錢ヨリ
 多カラス廿五錢ヨリ少カラス

第廿七條 副員進退ハ該校々長並學區取締

リ學務課ニ伺ヒ之ヲ所分ス其給料ヲ定ムル
 モ亦同シ

第廿八條 教員ハ都テ官民ノ際ニテ撰舉シ其
 任免黜陟ハ官廳專ハラ之ヲ掌ル

第廿九條 教員ヲ撰舉スルニ少掌教以下ハ其
 區公學校ニ於テ其學カヲ檢査シ品行ノ保
 証ヲ取り而シテ任用ノ等級ヲ定メ之ヲ本廳
 ニ具狀シ權中掌教以上ハ必ス師範學校ニ於
 テ其學カヲ檢査ス

但撰舉任用ノ法別冊ニアリ

第三十條 教員辭職セント欲スル者ハ必ス前

以テ其事由テ取締ニ申報シ代負選舉ノ備ヲ
為サシム可シ故ナク俄ニ職ヲ辭スルヲ得ヘ
カラス

第卅一條 掌教ハ年齢廿歳以上タル可ク助教
ハ拾六歳以下タル可ラス尤非凡俊秀ノ者ハ
此例ニ拘ハラス

第卅二條 教員ノ轉換スル毎ニ新教員ト旧教
員ト學校所有物品簿ニ調印スヘシ

第卅三條 教職勤務中商業工藝等教授ニ差支
アル他職ヲ兼帶スルヲ得ス

第卅四條 破廉耻其他過失アリテ罰ヲ受ケシ
モノ或ハ犯罪輕罰ニ當ルト雖氏其事跡顯然

タル者ハ都テ教員タルヲ得ス

第卅五條 小學教員ハ男女ノ差別ナシ其學力
才識ニヨリ任用スヘシ

第卅六條 歸省他行ヲ欲スルキハ其都度其筋
ニ伺ヒ許可ヲ待ツヘシ尤給料ハ其日數ニ應
ジ引去ルヘシ無届ニテ歸省他行致ス者ハ其
職ヲ曠フスルヲ以テ論ス

第卅七條 疾病ニ罹リ不勤ノ者ニハ左ノ割合
ヲ以テ月給ヲ與フ

但病案ハ一週間毎ニ差出サシム
十五日以内 全額
三十日以内 三分ノ五

五十日以内

三分ノ毫

第卅八條 教員校用ヲ以テ旅行巡廻致スルハ其日當卷末第ニ号表ノ通給與スヘシ

第卅九條 各校教員ハ連月三四回小學本校ニ集會シ教則ヲ講習スヘシ

第四十條 生徒無届ニテ五日以上闕席スルハ該父兄又ハ證人ニ參校ノ督促狀ヲ送ル可シ

第四十一條 教育上ニ於テ自己ノ意見アルキハ之ヲ官廳ニ建議ス可シ

第四十二條 懶惰放縱ニシテ職務ヲ曠フスル者ハ譴責ヲ加ハ等級ヲ下シ職ヲ解クヲアル

ハシ

第四十三條 學校内部ノ事務ヲ管理シ之ニ屬スル簿書整頓保全ノ事ヲ掌ル

第四十四條 教則ニ從テ業ヲ授ク

第四十五條 其學校限リ規則ヲ制定及改正スルキハ先官廳ニ伺ヒ而後施行スヘシ

第四十六條 生徒ノ學業試験ヲ行フ

第四十七條 生徒ノ進退ヲ掌ル

第四十八條 生徒ノ行狀衛生ニ注意ス

第四十九條 生徒ノ勤惰表ヲ作り監學科吏負來ルキ之ヲ示スヘシ

第五十條 書籍器械其他教用ニ屬スル諸具ヲ

掌

第五十一條 生徒卓越勉ノ者アルハ其狀ヲ具シ褒賞ヲ請與スヘシ

學區取締ノ事

第五十二條 一區毎ニ學區取締吏負ヲ置キ專ラ區内ノ學事ヲ擔保セシム

第五十三條 學區取締名稱等次給料左之通

名稱	準官等	月給
一等學區取締	十二等	拾三圓
二等全	十三等	拾圓
三等全	十四等	七圓
四等全	十五等	五圓

第五十四條 學區取締旅費日當卷末第二号表ノ通給與ス

第五十五條 學區取締ハ區務所ニ出勤シ或ハ諸校ヲ巡視ス其職務學務課ニ稟ク

第五十六條 上ハ文部省並縣廳ノ意向ヲ奉シ下ハ人民ヲ勸奨シ小學設立及ヒ保護ノ事ヲ計ル

第五十七條 學區人民ヨリ學事ニ付官廳へ願

同等ノ書面ヲ差出スキハ査閱ノ上調印スヘシ

第五十八條 區内教育事件ニ付テハ上下ノ責

任スヘシ

第五十九條 學事ニ関スル簿書整頓保全ノ事ヲ掌ル

第六十條 連年兩度子弟ノ就學不就學ヲ取調不就學ノ者ハ學ニ就ク能ハサル所以ヲ糾シ證ヲ取り置クヘシ

第六十一條 各校ノ中書籍器械其他教場必用ノ物品不足アル氏ハ主者ヲ督促シ調理セシムベシ

第六十二條 各校等級ニ據リ三ヶ月括リヲ以テ學資金ヲ官廳出納課ヨリ請取之ヲ各校保護役ニ配賦シ其遣拂明細ハ出納表ニ登記シ日計簿ト併セ學務課ニ差出シ檢印ヲ請ク可

第六十三條 各校學費出納表ハ三ヶ月括リヲ以テ四ヶ月目限り公道揭示場ニ公示スヘシ

第六十四條 學費獻納寄附願出許可指令後金穀書器納附相簿ハ該月廿五日限り取纏メ明細表ニ掲載シ納済可届出尤該月廿五日後寄附等ノ分ハ翌月納ノ部へ組込可届出事但明細表ハ卷末第三号表式ノ通タルヘシ

第六十五條 學校統計表公私學校表學校所有品高表學校出納表學資獻納寄附金一覽表等ハ例規之通取調一月限り學務課ニ差出ス可

第六十六條 教員ノ黜陟褒貶ハ官廳專ハラ之
ヲ掌ルト雖モ其才否勤惰ハ常ニ之ヲ精覈審
案シ要領ヲ具狀シ官廳ノ所分ヲ乞フヘシ
第六十七條 學區分合學校廢置移轉教員轉換
等ノ意見ハ之ヲ官廳ニ建議スヘシ

第六十八條 學制並學事ニ關涉スル規則章程
等實地施行ノ祭ニ便不便適不適ノ意見アル
キハ之ヲ官廳ニ申告シ或ハ主務官吏ニ稟議
スヘシ

第六十九條 教授ノ可否ハ教員ノ責任ト雖モ
學區取締ニ於テモ亦宜ク注意ス可シ

第七十條 各校生徒試験ノ節ハ立會可シ

小學校規則

第七十一條 午前九時ニ業ヲ始メ午後三時ニ
業ヲ終ル即九時ヨリ十二時迄一時ヨリ三時
迄ヲ修課時間トシ十二時ヨリ一時迄ヲ放課
時間トス

第七十二條 生徒ハ九時十五分前ニ參校シ扣
所ニ在テ就課ノ柝報ヲ待ツ可シ修課時間外
教場ニ入ル可ラス

第七十三條 生徒參校歸宅ノ途中無益ノ遊ニ
紛レ或ハ危戲ヲ為シ瓦石彈丸ノ類ヲ抛テ路
人ノ妨礙ヲ為スヲ禁ス

第七十四條 書器其他日用ノ物品ハ參校ノ節
必ス取揃携ヘ來リ決シテ失念ス可ラス

第七十五條 疾病事故ニテ不參之節ハ其趣ヲ
教員ニ届ケ出ツヘシ

第七十六條 教場ニ生徒ノ等級並ニ名札ヲ掲
ケ其坐次ヲ示スヘシ

但シ毎月末ニ試験シ其優劣且平生ノ勤
惰等逐一評判シ其席順ヲ變換スヘキ事

第七十七條 教場ハ毎日掃除シ清潔ニスヘキ
事

第七十八條 生徒癩疥其他傳染症ノ病アレハ
參校ヲ止メ全愈シテ傳染ノ患ヲキニ至リ出

校ス可シ

第七十九條 生徒入學致シ候上ハ何事ニヨラ
ス教師ノ指揮ニ從フ可シ

第八十條 樹木ヲ折リ卓椅ヲ毀テ戸障ヲ破リ
墨汁ニテ諸物ヲ汚シ筆墨類ヲ抛ツヲ禁ス

第八十一條 硝子盤石盤ノ類ハ破毀セサル様
注意スヘシ

第八十二條 教師ニ對シテハ勿論朋友中ト雖
モ禮讓ヲ重シ稱呼ヲ謹シム可キ事

第八十三條 教場ニ在テ禁止スル條件左ノ如
シ

無益ニ音聲ヲ發スルヲ

五ニ相談話スルヲ

奔走騷擾スルヲ

回顧傍視スルヲ

妄ニ起立シ妄ニ席ヲ離ル、ヲ

襟卷鳶合羽ノ類ヲ着スルヲ

書籍器械ヲ取亂スヲ

茅八十四條 給貸物品ヲ紛失スルハ其元價

ヲ辨償セシム

茅八十五條 學校年中休暇定日左之通

御定例祭祀日

連月一六日

連年七月廿日ヨリ八月十日迄

連年十二月廿八日ヨリ翌年一月三日迄

但郷社祭日其他臨時休暇ハ其時々掲

示ス可シ

右之條々堅可相守者也

茅幾番中學区内茅幾番

年月日

何 小學

小學生徒罰則

茅八十六條 修課時間妄ニ席ヲ離ル、者

茅八十七條 教場ニ在リテ襟卷鳶合羽ノ類ヲ

着スル者

茅八十八條 教場ニ在リテ私ニ談話スル者

茅八十九條 校内ニ於テ奔走騷擾スル者

第九十條 教場ニ在リテ書籍器械ヲ取亂ス者
 第九十一條 教場出入就席ノ時順序ヲ亂ス者
 右第九十六條ヨリ第九十一條マテノ條件ヲ
 犯ス者ハ十分時間ノ遊息ヲ禁ス
 第九十二條 校内ニ在リテ瓦石彈丸ノ類ヲ抛
 ツ者
 第九十三條 校内ノ樹木ヲ折リ又ハ草花ヲ蹂
 躪スル者
 右第九十二條第九十三條ヲ犯ス者ハ十五分
 時間ノ遊息ヲ禁ス
 第九十四條 喧嘩口論ヲ為ス者
 第九十五條 禮讓ヲ失シ過言ヲ為ス者

右第九十四條第九十五條ヲ犯ス者ハ他生徒
 退散後十五分時間學校ニ拘留ス
 第九十六條 卓椅戸障ヲ毀損シ又ハ墨汁諸物
 ヲ汚ス者
 第九十七條 給貸物品ヲ毀失スル者
 第九十八條 他生徒ノ書籍物品ヲ毀失スル者
 右第九十六條ヨリ第九十八條迄ノ内ヲ犯ス
 者ハ他生徒退散後四十分時間學校ニ拘留ス
 但過失ハ毀失物ノ定價ヲ償ハシメテ罰
 セス
 第九十九條 懶惰不勉強ニシテ教師ノ訓誡ヲ
 用ヒサル者

第百條 數度校則ヲ犯ス者

右第百九十九條第百條ヲ犯ス者ハ一時間教場

ニ直立セシム

第百一條 第百十六條ヨリ第百條マテ科目ニ

當ラサル者ハ時々稟議ノ上相當所分可致事

第百二條 犯則生ニ責罰ヲ施サントスルニ諸

教員之ヲ適當ナリトシ生徒モ亦心服シ取テ

異論ヲ發セサル時始テ之ヲ施ス可シ

雜則

第百三條 六歳以上十四歳以下ノ者ハ貧富ヲ

問ハス貴賤ヲ論セス必ラス各小學ニ入ル可

シ

第百四條 子弟ヲ入學セシメント欲スル者ハ

左ノ雛形通願書貳通ヲ認メ學校ニ差出ス可

シ

入學願書々式 用紙美濃紙

第何區郡村族籍

何誰男女又弟妹

苗字名

年齢

此度御校へ入學相願候就而者御規則堅
相守聊違背仕間敷候也

右之通保證候也

證人 父兄又ハ親戚ニテヨロシ

年月日

苗字名印

何小學御中

第百五條 學校ニ於テハ入學願書ヲ正シ差支

ナキハ準許ノ旨ヲ傳ヘ書面一通ハ簿冊ニ
編入シ一通ハ學區取締ニ送達スヘシ

第百六條 甲區ノ生徒道路ノ都合其他適當ノ

便宜ヲ以テ乙區學校ニ入學セント欲スル者
ハ甲區役負ヨリ送狀ヲ携帶スルハ其志願
ニ任ス可シ

第百七條 小學ニ入ル男女ハ種痘又ハ天然痘

ヲ為シタル者タル可シ

第百八條 定例休暇ノ外一日夕リハ無擾事故

ナキニ學校ヲ閉ツ可ラス

第百九條 教課時間ノ定例アリ故ニ豫メ生徒

ニ報告スルニ非レハ俄ニ變換スヘカラス

第百十條 一个ノ課程ヲ終ル毎ニ各級生徒ニ

五分時間乃至十分時間休憩セシムヘシ

第百十一條 教課時間ノ定制ヲ定ムルト雖モ

土地ノ情態ニヨリ斟酌スルハ妨ケナシ

第百十二條 上下ノ小學校卒業不致生徒ハ退

學ヲ許サス事情無據者ハ戸長ノ證ヲ取り而
後許可スヘシ

中學區會規則

第百十三條 中學區會ハ各中學區内一ノ會場

ヲ設ケ毎歲四回之ヲ開キ日數ハ五日以内タルヘシ

第百十四條 會同役負左ノ如シ

議長 本廳吏員ヲ以テ之ニ充ツ

會議一切ノ事務ヲ裁ス

幹事長 本廳吏員ヲ以テ之ニ充ツ

議長欠席ノ時ハ其職務ヲ代理ス其余部

テ幹事ニ同シ

幹事 投票ヲ以テ議負ヨリ之ヲ選擇ス

議長ノ命ヲ以テ議事ニ關スル一切ノ事

務ヲ扱フ議問ニ付衆決ノ條件ニヨリ議

案ヲ草作ス若シ議案ニ付疑問アルハ

幹事答辨者トナル故ニ一議問アルコト

ニ幹事ヲ投票スヘシ

書記役 臨時選定ス可シ

議事一切ノ記録ヲ司ル

議負 每區公學本校長學區取締各校主者

各寺名議問ノ事件ヲ審議討論ス

第百十五條 十一番中學區會ニハ十二番十三

番中學區ヨリ學區取締各兩名傍聽ノ為メ出

頭スヘシ十二番十三番中學區會モ之一準ス

第百十六條 左ノ場合ニ於テハ延會スヘシ

議負十分ノ五欠席セシ時

議長出席セサル時

第百十七條 議事ハ衆庶縱聽ヲ許スト雖モ議場ノ都合ニヨリ人負ヲ限ル事アルハシ

但議場ニ於テ猥リニ徘徊シ私語雜話欠伸吐唾吹烟飲食スルヲ禁ス

第百十八條 左ノ場合ニ於テハ縱聽ヲ禁スヘシ

議員四分ノ一以上同說ヲ以テ之ヲ禁セント請フ時

議長自ラ之ヲ禁セントスル時

第百十九條 議事ハ該中學区内ノ學事ニシテ政府ノ太政ハ勿論余事ニ及フヲ得ク

第百二十條 議題ハ會同二十日前管廳ヨリ之

ヲ公告ス可シ

但其以前各區トモ見込ノ議題ヲ管廳ニ具狀ス可シ

第百廿一條 議事ノ可否ヲ決スルハ同論ノ多キ方ニ依據スヘシ若シ可否相半スルトキハ議長之ヲ決スヘシ

第百廿二條 議論ハ公平中正ヲ旨トシ誅謗罵詈ニ涉ルヲ禁ス若シ屢規則ヲ犯ス者ハ議長退場セシムルノ權アリ

第百廿三條 議會ハ議スルノ權アリテ行フノ權ナシ

第百廿四條 議目ノ要領トスル者左ノ如シ

- 一 埼玉縣小學規則教則ノ事
- 一 教員選舉方法ノ事
- 一 教員養成方法ノ事
- 一 教員講習方法ノ事
- 一 學區會議ノ事
- 一 不就學督促ノ事
- 一 頑愚貧困ノ子弟ヲ就學セシムル事
- 一 學校廢置ノ事
- 一 校舍建築ノ事
- 一 學資出納ノ事
- 一 學資増減ノ事
- 一 受業料收入ノ事

- 一 各校書器調達ノ事
 - 一 中學及女兒小學等建設ノ事
 - 一 女兒教育方法ノ事
 - 一 生徒試驗並賞罰ノ事
 - 一 將來學事進歩方法ノ事
 - 一 中學區會内規則ノ事
 - 一 前條ノ外學事ニ関スル特別ノ事件
- 第百廿五條 決議ノ條件ハ總テ管廳議會ニ於テ審決シ長官ノ指揮ヲ待テ施行スヘキ者トス
- 第百廿六條 決議施行スルノ事件ハ再會ヲ待タスシテ再議スルヲ得ス

生徒試験ノ事

第百廿七條 生徒學科ニ於ケル必ラス順序ヲ
 踏マシム故ニ一級毎ニ試験アリ一級卒業ス
 ル者ハ卷末第四号書式雛形ニ照準シ免狀ヲ
 與ヘ進級セシメ落第ノ者ハ猶其級ニ留ム
 第百廿八條 每級六箇月ノ習業ト定ムト雖モ
 生徒學術進歩ノ都合ニヨリテハ斟酌伸縮シ
 テ試験スヘシ
 第百廿九條 生徒學業ヲ卒業スルキハ大試験ア
 リ即下等小學ヨリ上等ニ移リ上等小學ヨリ
 中學ニ進ム等ノ類ナリ
 第百三十條 試験ノ節父兄タル者ハ勿論其他

ノ者ト雖モ請求ニヨリテハ參觀ヲ許スヘシ

第百卅一條 試験ノ節參席ノ役負左ノ通

監學專任吏負 吏人

學區取締 吏人

検査人 吏人

記録人 吏人

但検査人記録人ハ該校教員タルヘシ

第百卅二條 試験ノ時特別優等ノ生徒ニハ優

賞ヲ與フルトアルヘシ

第百卅三條 該日事故アリ出席スルト能ハサ

ル者ハ翌日試験スルト前ニ同シ

第百卅四條 生徒試験ノ後ニハ姓名等級ヲ精

細ニ編製シ之ヲ監學科ニ納ムヘシ
第百卅五條 試驗ノ生徒ハ其學科優劣ヲ判シ
教場及校前ヲ揭示スヘシ

受業料ノ事

第百卅六條 受業料ハ縱令ト低高アルモ一時
民心其域ニ至ラス依テ貧富ニ應シ等差ヲ立
ル左ノ通

上産ノ者 三拾錢ヨリ廿錢迄

中産ノ者 廿錢ヨリ七錢迄

下産ノ者 七錢以下

右之通定立ルト雖モ土地ノ情態ニヨリテ一時
斟酌増減スルハ妨ケナシ

第百卅七條 一家二人ノ子弟ヲ學校ニ出スト
キハ下等二人ノ受業料ヲ納ム可シ若三人已
上ナル片ハ二人ノ外受業料ヲ差出スニ及ハ
ス

第百卅八條 貧匪無カノ實迹アル者受業料ヲ
免除ス

第百卅九條 受業料ハ毎月廿五日限り該校主
者へ差出ス可シ

第百四十條 病氣事故ニテ届濟ノ上全一ヶ月
闕席スル者ハ受業料ヲ免除ス

小學校費定額規則

第百四十一條 學校ノ等級校費ノ定額ハ卷末

第五六号表式ノ如シ

第百四十二條 諸學校學費ハ賤育金又ハ受業料等之ニ充ツ

第百四十三條 何等校生負何人ト稱スル必ラス全數ニ充ツルヲ謂フ

第百四十四條 學資渡方ハ受業料ヲ差引全費ノ三ヶ月一括ニシ首月ノ校等ニ據リ下渡

ス故ニ三月内ニ生負増減アリト雖モ校等ヲ搖サス

第百四十五條 學資受領ノ上ハ各校等級ニ應シ資金ヲ主者ニ分配シ遣拂明細ハ印計簿ニ

記載セシメ三ヶ月目ニ取纏メ照檢ス可シ

第百四十六條 學資金請拂ハ区内諸校ヲ統計

シ三ヶ月括リ學資出納表ニ記載シ學務課ニ差出シ檢査ヲ請可シ

第百四十七條 本校ハ書籍罫ノ入費ヲ除キ受業料ヲ差引全費十分ノ一委託金ヲ以テ扶助

ス 第百四十八條 受業料ハ其區校ニ於テ取纏メ

校費ニ差加ヘ融通ス可シ平均生徒一人ニ付七錢五厘ニ至ラサル片ハ適宜ノ法ヲ設ルモ

妨ケナシ 第百四十九條 公學本校雜費ハ生徒一人ニ付

一ヶ月金壹錢五厘其他ノ公學ハ同金壹錢ヲ

渡ス

第百五十條 定額餘金有之ハ貯蓄致準備ト
シ必用ノ節學務課ニ申立許可之上流用可致
事

但甲校ノ餘金ヲ以テ乙校ニ流用スルヲ得
可ラス

第百五十一條 日計簿ハ學務課ニテ檢査印ヲ
捺シ下附ス

教員心得ノ事

教師タル者ハ唯文學書數ノミナラス父兄ニ代
リテ教訓ヲ施スハ勿論ナレハ宜ク生徒ヲシテ
父兄ノ如ク親從セシムヘシ親從ノ本ハ叮嚀ニ

アリ丁寧ニシテ倦サレハ生徒モ亦退屈セスシ
テ勉強スヘシ故ニ生徒ノ懶惰ハ教師ノ懶惰ト
ル可シ

弟子ノ行狀ハ總テ其師ニ類ス蓋シ弟子タル者
ハ必ス其師ノ好ム所ヲ伺ヒ其師ノ為ス所ヲ真
似タハ其師ノ如クナラサルヲ恐ルハ者ナレハ
師タルモノ自カラ怠リテ後弟子之ヲ怠リ師タ
ル者自犯シテ後弟子之ヲ犯ス故ニ生徒ノ過失
ハ教師ノ過失タル可シ

毎朝遅クモ開場十五分前ニ參校シ生徒ノ舉動
ニ注意シテ保護ノ念ヲ忘ル可ラス

教員自己ニ屬スル用件ハ勿論至要ナル校務ト

雖モ課業時間生徒ヲ使事ニ差遣ス可ラス
 校内諸規則ヲ身親ラ遵奉シ就中自己ノ職務ニ
 管係スル條件ヲ信實ニ守ラントラ要ス
 教師ハ嚴和宜シキヲ得其言簡ニシテ要ヲ得ル
 ヲ良トス或ハ和ニ流レ激ニ失ス可ラス
 教師教鞭ニテ生徒ヲ指揮ス可ラス只塗盤ノ字
 ヲ指シ或ハ授讀ノ片字指ニ換ユヘキノミ
 物ニ倦ミ易キハ勿釋ノ常ナレハ酷ク之ヲ責ム
 可ラス課程ノ進歩ヲ以テ之ヲ慰メ後來ノ利害
 ヲ解テ之ヲ勵ス可シ
 師タル者自ラ稱呼ヲツ、シミ揖讓ヲ嚴ニシ生
 徒ト雖モ奴隸ヲ取扱フ如ク野鄙ノ語ヲ發スヘ

カラス
 生徒ノ罪アル者ハ之ヲ罰スルハ勿論ナレ共師
 タル者自ラ鞭ヲ擧テ之ヲ打擲シ或ハ大聲ヲ發
 シテ之ヲ叱ス可ラス
 蓋シ師ノ行狀正シキハ靜ナル一言ニテモ生徒
 フシテ恐縮セシム可シ

生徒心得ノ事

諸生徒在校ノ時ハ勿論學校出入ノ節モ順序正
 ク擧動ヲ適宜ニシ身体及衣服ヲ清潔ニシ書籍
 ヲ大切ニ所持シ物品ヲ丁寧ニ取扱教場ニ出入
 スル片ハ威儀ヲ正クシテ亂雜ヤス退散ノ時ハ

速ニ學校近所ヲ立去ルヘシ

朝六時ニ興キ先ツ顔ヲ洗ヒ口ヲ漱キ髪ヲ搔キ
 父母ノ安否ヲ伺ヒ出入トモ必ラス之ヲ告ケ萬
 事其命ヲ待テ之ヲ行フ可シ蓋シ父母ノ已ヲ愛
 スル至ラサル所ナシ寒キ時ハ衣ヲ着セ飢タル
 時ハ食ヲ與フ入テハ善ヲ行ハン一ヲ欲シ出テ
 ハ過ナキヲ欲ス故ニ父母ノ命ニ反クハ道ニ反
 ク所以ナリ道ニ反ク者ハ何事ニテモ成就スル
 一ナシ
 書籍筆紙等課業ノ品ハ預メ机上一ニ取揃ヘ置キ
 朝食終ラハ參校ノ用意ヲ為スヘシ
 毎朝參校ハ閑場十分前タル可シ席ニ就ク時ハ
 先ツ教師ニ禮ヲ施シ受業中ハ他念ナク教師ノ

何百何拾人程

一生徒受業料

寺ヶ年何程

但寺人ニ付平均何拾何錢程

一學校費用

諸雜費薪炭油米ニ小破營繕入費寺ヶ年何程

雇人又ハ僕後給料寺ヶ年何程

右費用總計寺ヶ年何程見積

右之通閑業仕度此段奉願候也

第何區何村結社人又ハ

年月日 苗字名印

埼玉縣令何某殿

前書

奉願度旨申出候ニ付奥書印形仕候也

何 區

正副區長

年 月 日

名 印

學區取締

名 印

規則第五十八條第貳号表

小學教員薪費日當表

旅行 以上	拾里	未滿	五里	三 里	五 里	三 里	未滿	三 里
巡迴	以上	五里	三 里	未滿	日 往	日 往	未滿	三 里
滞在	以上	以上	以上	滞在	日 還	日 還	暮 還	未滿
正權大 中學教 師	壹	六十	四十	三十	二十	五十	拾	拾
正權少 掌教助 教	四	五	五	二	五	五	五	五

規則第六十四條第三号表式

第何區

明治八年 學資獻納寄附局長 主任 學區取締印

總額金何圓 調查 正副區長印

此譯

書籍何々 此代價金何程	全	區內何學校納	何月幾日御指令濟 同月何日納	何村 何ノ某
器械何々 此代價金何程	全	以下做之	全	全

本月分納濟御届仕候也

年号月日

右區正副區長

琦玉縣令何誰殿

何ノ某印

規則第百十三條第四号書式

小學等級卒業ノ證書式

大奉書紙四ツ切
四ツ折ヲ用フ

學 印

何縣華士機僧侶平民

苗字名

字何年何月

上等小學第幾級卒業候事

第一大學區琦玉縣管内

第幾中學區何郡何村

學校名稱又ハ番号

第一大學
區第幾番
中學區第
何番小學

學 印

肩書前同断

苗字名

前同断

上等小學教科卒業候事

第一大學區琦玉縣管内

第幾中學區何郡何村

年号月日學校名稱又ハ番号

規則第百四十条第五号表

公學本校等級資金定額表

等級	一等校	二等校	三等校	四等校	五等校	六等校
人数	二百人	二百五十人	二百人	百五十人	百人	五十人

破損資料

規則第百四十一條第六號表

扶助金	一年總計	一月差引	受業料	總計	雜費	宿料	宿料	小破	雜費	給役料	給料	生負	學級
四四六〇	四百廿四	卅五	廿二	五十七	四五十	二四	二四	二四	三〇	三〇	三〇	三〇	一
二四四七	三百九十二	卅七	廿二	五十一	三〇	二	二	二	二	七	七	二	二
二四廿	三百卅	廿九	十五	四十四	二四	壹	壹	壹	壹	七	七	五	五
二四廿	三百卅六	廿八	廿五	卅九	二四	壹	壹	壹	壹	七	七	百	百
二	三百	廿五	廿五	卅九	壹	壹	壹	壹	壹	七	七	七	七
二四三	二百八十八	廿四	廿四	卅七	七十五	壹	壹	壹	壹	五	五	五	五
七五													

公學等級校費定額表

一等校	二等校	三等校	四等校	五等校	六等校	七等校	八等校	九等校
百八十四	百五十三	百廿三	九十七	九十三	七十六	七十二	七十四	六十六
十五	十二	十	八	七	六	六	五	五
廿二	十八	十五	十三	十一	九	七	五	三
卅七	卅一	廿五	廿一	十九	十五	十三	十一	九
四十五	三十八	三十五	三十	廿五	廿一	十九	十五	十三
四十五	三十八	三十五	三十	廿五	廿一	十九	十五	十三
四十五	三十八	三十五	三十	廿五	廿一	十九	十五	十三
四十五	三十八	三十五	三十	廿五	廿一	十九	十五	十三
四十五	三十八	三十五	三十	廿五	廿一	十九	十五	十三
四十五	三十八	三十五	三十	廿五	廿一	十九	十五	十三

廿九

100/1000

100 5/100 90

明
宣
統
三
年
一
月
十
日

增
興
武
藏
國
姓
字
新
那

印
元
治
印
峰

兵
部
司
理
官
印
元
治
印
峰